

幼児及びその保護者の子育て・健康・食生活状況に関するインタビュー調査
—COVID-19 感染拡大前後の変化—

研究分担者 祓川 摩有 （聖徳大学児童学部児童学科）
研究協力者 林 典子 （十文字学園女子大学人間生活学部健康栄養学科）

研究要旨

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の感染拡大により、食生活の変化が指摘されている。しかし、我が国の幼児及びその保護者の健康、食生活、子育て状況に COVID-19 が影響したことが考えられるが、その実態は明らかではない。そこで本研究では、COVID-19 感染拡大後の幼児及びその保護者の健康・食生活・生活習慣・子育て状況の実態を把握することを目的とし、インタビュー調査を実施することとした。

2～6歳の子どもを持つ母親を対象に、居住地域や就労形態で、4つのグループ（地方・専業主婦、地方・ワーキングマザー、都心・専業主婦、都心・ワーキングマザー）に分けて、オンラインでグループインタビューを、実施した。インタビュー項目は、現在の食生活の状況、COVID-19 感染拡大前後で変化したこととした。

インタビュー調査の結果、COVID-19 感染拡大前後の良い変化として、子どもと一緒に過ごす時間が増えた、風邪を引きにくくなった、家族全員で食事をする機会が増えた等があげられた。悪い変化として、相談できる場所や人が減った、スマホ・タブレット等の時間が増えた、おやつ・ジュースの量が増えた等があげられた。しかし、各家庭によって状況が異なっていたため、その家庭や子育て環境に即した支援が求められることが明らかになり、情報提供や交流の場の重要性も示された。

A. 研究目的

2019 年末より世界的に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の流行により、人々の行動や生活が変化したことが国内外で報告されており、食生活の変化が指摘されている。しかし、我が国の幼児及びその保護者の健康・食生活・生活習慣・子育て状況に COVID-19 が影響したことが考えられるが、その実態は明らかではない。そこで本研究では、COVID-19 感染拡大後の幼児及びその保護者の子育て・健康・食生活状況の実態を把握するこ

とを目的とし、インタビュー調査を実施することとした。

B. 研究方法

1. 調査方法、研究対象

子育ての状況をより幅広く把握するために、子育て関係のアプリおよび関連する SNS を提供している会社に調査協力を依頼し、アプリ及び SNS の利用者である 2～6 歳の子どもを持つ母親を対象に、オンラインで、グループインタビューを実施した。COVID-19 感染者が多い都心、感染者が少

ない地方などの居住地域や、就労形態によって、状況が異なることが予想されること、また、対象者が意見を出しやすいように、居住地域(地方、都心)や就労形態(専業主婦、ワーキングマザー)で、4グループに分けて、インタビューを実施した。

A：地方・ワーキングマザーグループ

B：地方・専業主婦グループ

C：都心・ワーキングマザーグループ

D：都心・専業主婦グループ

各回、対象者を2～4名、1時間程度とし、各グループ2回、合計8回、2021年4月～11月に実施した。なお、調査方法の標準化を図るため、インタビューガイドを作成し、進行は、全て研究分担者1名が実施した。

2. 研究内容

インタビュー項目は、現在の食生活の状況(家庭の食卓によく出す料理、固さや味付け、気を付けていること)、COVID-19感染拡大前後で変化したこと(子育て、健康、食生活)等とした。なお、変化については、良い変化および悪い変化、両方、質問をした。インタビューした内容を録音し、逐語録を作成し、分析を行った。COVID-19感染拡大前後は、内容をカテゴリに分け、良い変化と悪い変化に分類した。なお、回答者個人の年代、世帯構成、子どもの数等の属性については、インタビュー前に、Microsoft Formsにより回答を得た。

(倫理面への配慮)

事前に、研究趣旨や内容、方法、個人情報の保護等について説明し、同意を得られたものを対象とした。本研究は、女子栄養大学

研究倫理審査委員会の審査、承認を得た上で実施した(承認番号第317号)。

C. 研究結果

1. 対象者

表1に対象者の属性を示した。対象者の母親の年齢は、30代が最も多く、子どもの年齢は、2歳代が最も多かった。また、子どもの日中の主な預け先は、保育所が最も多かった。

2. 現在の食生活の状況

現在の食生活の状況の回答を表2に示した。外食や中食の頻度には、家庭による差があった。また、固さや味付けは、2歳の子を持つ母親は皆、配慮していたが、3歳以上は、ほとんどが大人と同じにしていた。

3. COVID-19感染拡大前後で変化したこと

COVID-19感染拡大前後で変化したことの回答内容を表3に示した。

子育て環境では、子どもと一緒に過ごす時間が増えたことや、近場で遊ぶようになったことで、運動量が増えたことなどがあげられたが、悪い変化として、児童館などが利用できないと発言する母親は多かった。また、仕事が在宅になることで、子どもと一緒に過ごす時間が増えたが、リモートワークの邪魔にならないよう、気を付けないといけないことがストレスになっている母親もいた。

保育所・幼稚園では、感染対策をしてくれている一方、行事が減ったこと、黙食、パーティー付きの昼食、歯ブラシといったことがあげられた。

生活習慣では、生活リズムがよくなった家庭がある一方で、生活リズムの乱れ、スマホ・タブレット等の時間が増え、寝る時間が

遅くなった家庭もあった。

健康面では、風邪を引きにくくなったという良い変化があったが、大人や子どもが、気分の落ち込みやストレスを感じるようになったと回答する者は、どのグループでもあった。

食生活面では、子どもと一緒に調理することや、家族全員で食事をする機会が増えた一方で、おやつ、ジュース量の増加、ダラダラ食べ、食事作りの負担の増加などが、悪い変化としてあげられた。

D. 考察

本調査では、COVID-19 感染拡大前後の変化を幅広く把握するため、子育て、健康、食生活に関する変化があったかどうかを、広く質問したため、回答者によって、内容に違いが見られている。そのため、居住地域や就労形態による差を明確にすることはできなかったことや、COVID-19 感染拡大前後の期間に、子どもの発達や成長があるため、COVID-19 の影響とは言い切れない点もあるが、各家庭の状況を幅広く質的に把握することができた。

COVID-19 感染拡大の変化によって、同じグループでも、良い変化が生まれた家庭と悪い変化が生まれた家庭があり、個人差がみられたため、各家庭に即した支援が求められる。また、相談できる場所や人が減った、情報交換ができないという回答は、どのグループにもあったため、情報提供や交流

の場を設けることが重要であることが示唆された。

E. 結論

本研究の結果より、COVID-19 感染拡大前後の子育て、健康、食生活の状況が明らかになった。家庭の状況に合わせた支援の必要性や、情報提供の工夫や、交流の場を設けることの重要性が示唆された。

謝辞

本研究に協力いただきました方々に、感謝いたします。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表1 対象者の属性

	(n)	(%)		(n)	(%)
母親の年齢			きょうだいの有無		
20代	1	5.0	兄弟	3	15.0
30代	17	85.0	弟妹	5	25.0
40代	2	10.0			
子どもの年齢			子どもの日中の主な預け先		
2歳	7	35.0	保育所	8	40.0
3歳	3	15.0	認定こども園	1	5.0
4歳	5	25.0	幼稚園	5	25.0
5歳	3	15.0	預けていない	6	30.0
6歳	2	10.0			
出生順位					
第1子	17	85.0			
第2子	3	15.0			

n=20

表2 現在の食生活の状況

質問項目	回答内容
家庭の食卓によく出す料理	簡単に作れるもの 子どもが食べやすいもの、食べてくれるもの 手の込んだもの
固さや味付け	大人と同じ 大人と同じだが、カレーなど辛い物は甘めにしたりしている子ども向けのレシピで、大人も食べられるものになっている 子どもは薄味にしている
気を付けていること (固さや味付け以外)	野菜をとれるような献立にする 肉と魚を交互に出す

表3 COVID-19 感染拡大前後で変化したこと

質問項目	回答内容（回答グループ）	
子育て 環境	良い変化	・子どもと一緒に過ごす時間、成長を見れる時間、楽しめる時間が増えた（C） ・スキンシップが増えた（C） ・公園に行くようになったり、散歩するようになり、運動量が増えた（B、C、D）
	悪い変化	・児童館、子育て広場、子育て支援センター、療育の利用頻度が減った（A、B、D） ・出かける回数が減った（A、B、C、D） ・相談できる場所や人が減った、ママ友が作れない、情報交換ができない（A、B、C、D）
保育所 ・ 幼稚園	良い変化	・感染対策をしてくれている（D）
	悪い変化	・行事が減った（A、B、C） ・黙食、パーテーションをつけて食べている（B、D） ・園で黙食のため、家でご飯中に喋っていいか聞いてくるようになった（B） ・歯ブラシをしてくれなくなった（A）
生活習慣	良い変化	・生活リズムがよかった（B） ・手洗いができるようになった（B、D）
	悪い変化	・生活リズムの乱れ、寝る時間が遅くなった（B、C、D） ・スマホ・タブレット等の時間が増えた（A、B、C、D）
健康面	良い変化	・病院に早く行くようになった（B） ・風邪を引きにくくなった（B、C、D）
	悪い変化	・歯医者に行く頻度が減った（C） ・気分の落ち込み、ストレスを感じるようになった（A、B、C、D） ・親の体重が増えた（D）
食生活	良い変化	・子どもと一緒に調理することが増えた（B） ・家族全員で食事をする機会が増えた（B、D） ・気をつかうようになった（C、D）
	悪い変化	- おやつ、ジュースの量が増えた（A、B、C） - だらだら食が増えた（B、C） - テイクアウトが増えた（A、B、D） - 食事を作りの負担が増えた（C、D）

回答グループ：A：地方・ワーキングマザーグループ、B：地方・専業主婦グループ

C：都心・ワーキングマザーグループ、D：都心・専業主婦グループ